

北極圏旅行記 2017-2018 冬 (8)

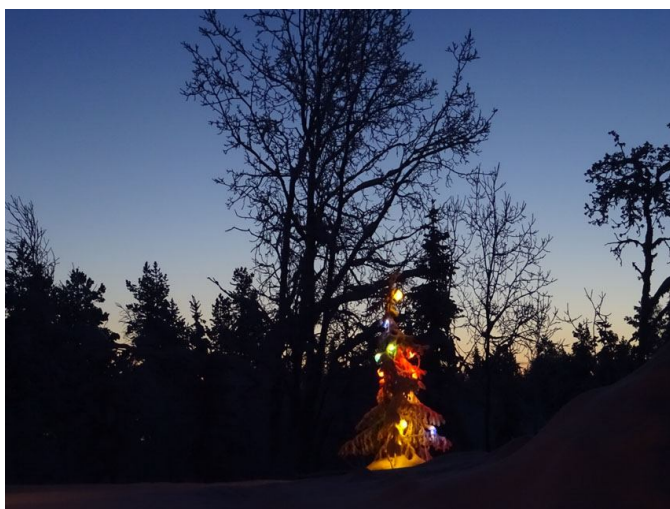
～12/28 北極圏の朝～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



(3 ページ目に拡大写真)

冬の北極圏の朝は遅い。午前8時になっても、やっと上の写真のような景色だ。そもそも「北極圏」の定義は、北緯 66 度 33 分より北、つまり「一年のうち一日以上、白夜と極夜の日がある」地域ということだ。私が滞在したマスグンス村 (Masugnsbyn) も北緯 67 度 28 分の北極圏に位置するので、冬至を挟んで前後 2 週間ほどは、地平線上にまったく太陽が姿を見せない。これが「極夜」である。逆に夏至を挟んで 2 週間ほどは、太陽がまったく沈まなくなる。これが「白夜」である。




「黎明のクリスマスツリー」

「冬の北極圏の朝は遅い」と書いたが、実は「冬の北極圏には朝が来ない」が正しい。

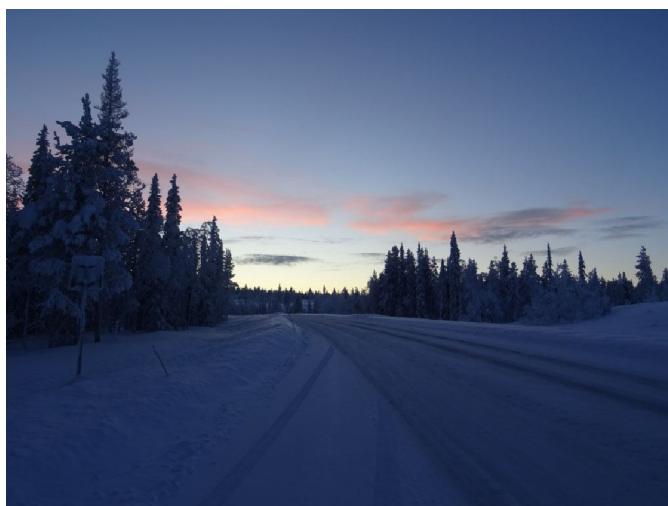


Sol og måne, 01.01.2018

Sol	Måne
 Det er mørketid, sola står ikke opp.	 Månen opp 12:57 Månen ned 08:55

上図は、宿泊地から近いノルボッテン州のユッカスヤルビ (Jukkasjärvi ; ユッカス湖) の元日の暦である。月は昇ってくるが、太陽のほうは“Det er mørketid, sola står ikke opp.”「極夜です、太陽は昇りません」(ノルウェー語) と表示されている。

では、日中は明るくならないかということ、そんなこともない。太陽の実体 (光球)こそ見えず、日差しも感じないが、正午前後には太陽は地平線ぎりぎりまで高度を上げてくる。正午を挟んで、日の出前、或いは日没直後の状態が 2 時間ぐらいずつ続く。「朝焼けがそのまま夕焼けになる」と表現すればわかりやすいかもしれない。たとえば、下の写真も「朝焼け」と言っても良いし「夕焼け」と言っても正しい。



こんな真っ暗な土地で、時間の感覚が狂わないか？
というと、猛烈に狂う。朝になっても真っ暗なので、
いつまでも寝ているし、夜は夜で6時ぐらいには眠く
なってくる。特に今回は滞在型の旅行なので、ヘタす
ると、トータルで一日14時間ぐらい寝てしまうこと
もある。これはもう「冬眠」と言って良いだろう。



「黎明スノー・キャビン」(3ページ目に拡大画像)

ではこんな土地を冬に旅行して、何が楽しいのかと
いうと、一つは間違いなく「オーロラ」だろう。この
土地でこの時期にしか見られない、地球上で見られる
自然現象の中でも、最も神秘的なものだろう。もうひ
とつは、その「やや明るい4時間」に見られる、北極
圏の風景だろう。この風景については、今後紹介した
い。もうひとつは「食事」だ。

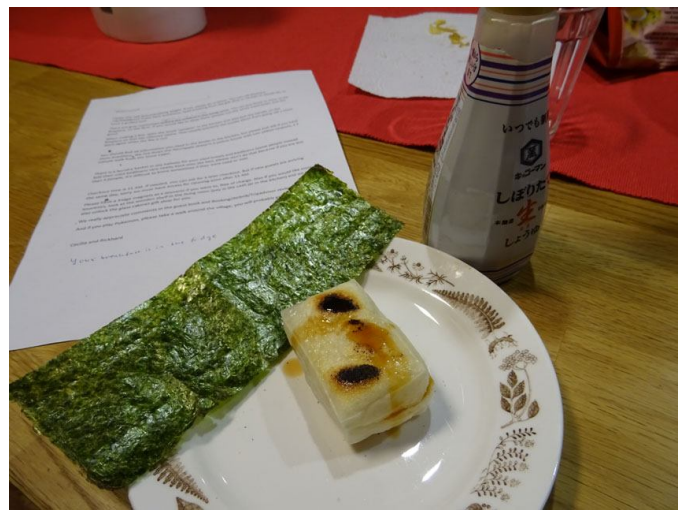
「レストラン」も「コンビニ弁当」も「松屋」も「ビー
玉」もないので、旅行者自身が作って食べるしかな
い。日本から持ち込んだ食材が大変役立つ。



これはインスタントラーメンを使った「つけ麺」。
キャビンにお椀型の食器がないので、スウェーデンで
ラーメンを食べるには、この方法に限る。



これはグラタン皿で作った「梅茶漬け」これが非常
においしかった。少し郷愁を誘うのが難点。



こちらは「焼き餅」。IHヒーターとフライパンで作
れることがわかった。しょう油も日本から持参。



何よりも楽しかったのがこの「ソーセージ・グリル」
だ。本来は犬ぞりやスノーモービルツアーの時、森の
中で焚火をして楽しむものだ。キャビンには本格的な
暖炉があるので、白樺の枝で作ったスティックに刺し
て焼いた。これが御飯に合う！大ヒットだった。

